移動販売好評　山梨総合運輸

8月より2台目が稼働
3台目も注文済
運送、倉庫に次ぐ3本目の柱に

売れ筋はすぐに食べられる果物、パン、お茶菓子、プリン、ヨーグルトなど

創業60年の老舗会社・山梨総合運輸㈱（樋口恵一社長、山梨県中央市）は2018年7月から移動販売「産直やさい便　甲斐もの」を始めている。農家から直接仕入れた有機野菜、県内ベーカリーのパン、卵・豆腐・乳製品などの生鮮食品、インスタント食品など約300品目をそろえる。

同社の移動販売責任者の宮本真典・営業部長によると、新規事業を立ち上げた背景には、社員の高齢化があった。将来、病気や介護などでフルタイム勤務できなくなった社員をやめさせず雇用を継続するため、受け皿となる職種を多様化する必要があったという。

移動販売は運送・保管のノウハウを活かせる事業で、フルタイムでなくてもできる。

また、運送は顧客企業の生産量増減などによって売上が左右されるため、運送、倉庫に次ぐ3本目の柱を検討していた。大手スーパーが開業して近所のスーパーや商店街がなくなった、といった「買い物難民問題」を解決したいという思いもあった。

苦労したのは、販売先の開拓。当初は住宅街や集合住宅がターゲットだった。現地調査ではニーズがあっても、実際に行くと見ず知らずの移動販売に住民はなかなか集まってくれなかった。

現在、販売先の約6割が福祉施設で、デイサービスやサービス付き高齢者住宅（サ高住）など約20拠点を訪問している。

高齢者にとっては、買い物をすること自体が楽しいレクレーションやリハビリになる。お金のやり取りも刺激になり、頭が活性化して元気になれる。新型コロナ感染対策のため、数人を送迎車に乗せてスーパーへ行く「買い物レク」ができなくなったが、それに代わるものとして移動販売が期待されている。

宮本部長は、「移動販売は、商品を配達するだけでなく、並んだ商品を見て、対面で店員とのやり取りを楽しみ、自分で商品を選べるのがポイント。格安や仕分けは社員で手分けして行う。配送帰りのドライバーや事務員が仕入れに行くこともある。今までは仕入れと販売のノウハウを作る試行錯誤段階だったが、今後は本格的に事業展開するため、パートやアルバイトも検討していきたいという。

1台あたりの月の売り上げは70～80万円。目標は100万円だ。

宮本部長は、「8月より2台目が稼働を始めた。3台目も注文し、納車を待っている。まずは5台、さらに10台体制で山梨県内全域を網羅することを目指している」と意気込んでいる。

地域の高齢者に喜ばれる存在になりつつある

第1回 トラックと風景 フォトコンテスト開催のお知らせ

トラック情報社では、第1回 トラックと風景 フォトコンテストを開催します。「あの時の風景、あの時の感動を伝えたい！」日頃、トラックを走らせていると、思わぬ風景に巡り合うものです。素晴らしい風景と愛着のあるトラックをスマートフォンで撮影し、弊社までお送りください。

応募資格

トラックドライバー　年齢、性別不問

応募期間

2022年11月21日～2023年1月31日

応募方法

写真を info@shinjidai.jp まで、会社名、氏名、